

## 三十三年目の再会



文学部長  
まつお  
松尾  
まさひと  
正人

御卒業おめでとうございます。社会に船出する皆さんは大いなる期待、そして不透明な時代の先行きに一抹の不安を胸にしているのかもしれない。そのような時代であっても、皆さんが中央大学で獲得した財産は、将来のどんな困難にも打ち勝つ貴重な力となるはずです。

わたしは昨年十月、大学時代のクラスの友人と三十三年ぶりに再会する機会がありました。彼は郷里の八戸市の新聞社に就職し、卒業してから会う機会がないままに過していました。思いがけないことから、八戸へ出張する機会が重なり、思いきつて電話をかけたのが三十三年ぶりでした。

電話口の彼は、一瞬、驚いて言葉に窮していたようですが、それでもすぐに私がかかったようでした。翌日、待合わせ場所に現れた彼は、昔の面

影と随分違っていました。それでも、話し出したら三十三年前に戻っています。肩を左右にゆるする癖、低い声でボソボソと話す口調、いずれも昔のままです。彼との話しから、別のクラス仲間の近況もわかりました。八戸から仕事で上京した折りなど、連絡をとりあっていたようです。時間はあるというまに過ぎ、何時の日のかの再会を約して別れました。

それから半年、八戸での再会を思い出すたびに、なんとなく心が暖かくなる思いがします。駿河台にあった中央大学の旧校舎とともに学び、喫茶店で語りあった日々が、昨日のように蘇ってきます。気持ちだけでなく、身体までが少し若くなったように思えるから不思議です。

中央大学で学んだ日々は、皆さんの貴重な財産で、長い人生の折々に役立つはずで、勇気と自信を持って飛び立つて下さい。活躍を祈念しております。